

Bonjour, tout le monde!

皆さんこんにちは！ 現在フランスの Lille という町に留学中の高1 大屋あかりです。

もう3月、年度終わり、日本では徐々に桜が咲いてくる時期ですね。私もフランスへ来て6か月と少しが過ぎました。最近は日の出が7時過ぎになり、日の入りも18:30と1日が長くなってきました。フランスでは夏になると日の入りが22時過ぎになるらしいです…。

今回は私の最近の様子についてお話ししたいと思います。フランスのクリスマスや新年については、[こちら](#)からどうぞ。

フランスでクリスマス・新年とビッグイベントが過ぎ、ホストファザー・マザーは「Dry January」をしていました。年末年始にたくさんお酒を飲んだから、1月中は1か月間禁酒をする、というものです。日本にも存在しているのでしょうか。街にはクリスマスツリーの廃棄場が設置されていました。フランスでは基本、クリスマスツリーはプラスチックではなく本物を毎年買って飾ります。これはクリスマス後に、ツリーをリサイクルするために設置されていたものです。



さあ、1月のフランスと言えば、「Galette des rois (ガレット・デ・ロワ)」です！皆さんの中にも食べたことがある人はいるのではないのでしょうか。大きな円盤のアーモンドペーストのパイ（アップルパイもある）の中に「fève (フェーヴ)」という小さな陶器の人形が入っていて、それを当てた人は1日中キング・クイーンになれるというものです。週末に家族で集まったり友人



人の家に招かれたりすると、高確率で食べます。私も1月中に何回か食べて2回クイーンになりました！ 伝統では、家族の中で一番最年少の子供が机の下に潜り、大人が切り分けたパイを誰にあげるか指名します。ケーキ屋はもちろん、パン屋やスーパー、至る所で Galette des rois は売られていて、一人用から大人数用まで様々なサイズがあります。

さて、皆さんは新年に今年の抱負など決めましたか？ 私はフランスにいる間にやりたい事を書き出しました。その中でも一番は、友達とたくさん遊ぶこと！



これはクリスマスシーズンに町の中心部に設置されていた大型観覧車です。学校終わりに友達と乗りに行きました。日本の観覧車とは違い、回るスピードも速く、しかもカプセル型ではないので寒いし少し怖いです。ですが景色は本当に綺麗！

スイスからの留学生の友達とお別れ。「家族や友達と会えるのは嬉しいけど、まだフランスから離れたくない。複雑な気持ち」と言っているのを聞いて、残りの留学生活について考えるきっかけになりました。私はまだ日本へ帰る時のこと



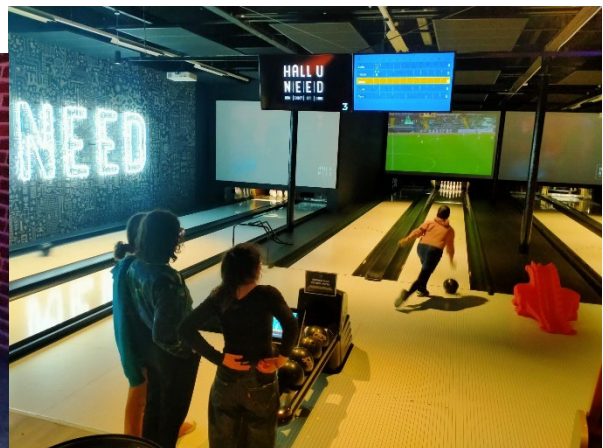
は想像できませんが、悔いの残らないように全力でフランスを楽しみたいです。



学校で友達が漢字を書いているところです。意外とみんな上手に書けてびっくり！ 多くの人が日本語はひらがな・カタカナ・漢字の3つの文字を使うということを伝えると驚きます。私も日本語の難しさを改めて感じました。

ホストファミリーとも、今では本当の家族のように感じるほどになりました。文化の違いで起こる問題もありましたが、その度にたくさん話し合い一緒に解決策を探していくうちに、関係性がまた強くなった気がします。留学前はホストファミリーへの不安も

ありましたが、こんなに素敵な人たちに出会えて今は本当に幸せです！



この前は金曜日の夜に急に「今からボーリングに行くよ！」と言われ夜遅くまでボーリングをしました。同じ施設の中にあったゲームセンターでも白熱した戦いが繰り広げられていました(笑) 日本では土曜日にも授業がありますが、フランスでは学校は基本的に月から金まで。金曜日の学校の後は「週末だー！」と解放感が凄いです。またまたとある金曜日の夜、映画館で「浅田家！」という映画を見ました。フランスで邦画が見れると思ってなかったので思わぬサプライズにとっても嬉しかったです！フランスでも韓国映画は有名らしいのですが邦画は珍しいらしいです。



これは日本でも人気の「Raclette (ラクレット)」です！ フランスでは寒い冬に食べる料理で、数種類のスライスされたチーズを溶かし、蒸したジャガイモ、色々な種類のハム、サラダやピクルスと一緒に食べます。基本的に一家に一台 Raclette の機械があるそうです。みんな Raclette のプロで色々な工夫をした食べ方を知っているので、いつも真似しています。みんなカロリーが高いのは知っているのに時々しか食べませんが、みんなが大好きな料理です！ 本当に美味しい！ この日の食

後は福笑いをしました。ホストファミリー全員上手に顔を作るのでつまらなかったです(笑)。

この前の週末はホストファザーと「Boeuf Bourguignon (ブフ・ブルギニョン)」そして「Chicon au Jambon (シコン・オ・ジャンボン)」を作りました。フランス、特に北の地方の料理です。フラン

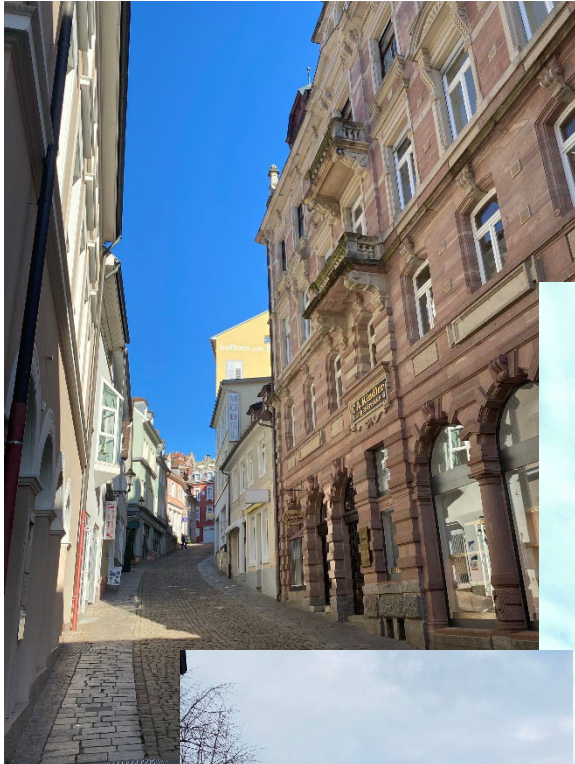


ス料理といえば、皆さんは何を思いつきますか？ 私はこの 2 品とも知りませんでした(笑)

2月の2・3週目にあったバカンスでは、ホストファザーのご両親の家に行きました。車で片道5時間ちょっと。行く道のりでベルギー・ルクセンブルク・ドイツをまたぎ、再びフランスへ戻ってようやく着きました。島国の日本では考えられませんよね。国境間の行き来もEU内は自由なのに加え、大陸では「ここから違う国」と変わる瞬間が私には本当に不思議な感覚です。留学中に機会があれば他国にも行く事が出来るのがヨーロッパ留学の魅力だと思います。



Bitche (ビッチ) というアルザス地方にある町にホストファミリーのおじいちゃんおばあちゃんの家があり、そこに滞在中にドイツや **Strasbourg** (ストラスブール) という大きな町にも行ってきました。「フランス」と言っても地域によって建物のスタイルや郷土料理が全然違い、街をただぶらりと歩くだけでも楽しいです！ ホストファミリーの親戚の方々は、初めて私と会ったにも関わらず、本当の家族のように接してくれて、とても暖かい人達です。



←ドイツの **Baden-Baden** (バーデン=バーデン) という小さな町。建物がとてもカラフルで可愛い！



→
Strasbourg
の大聖堂
と、アルザ
ス地方の典
型的な家の
造り





アルザス地方の郷土料理、「Choucroute (シュークルート)」です。味付けされたキャベツの千切りの上に 7 種類ものお肉が乗っています。二人分を選びホストマザー・ファザーと 3 人で食べましたがそれでも食べきれないほどボリュームでした(笑)

さて、フランスでは今全国的に大規模なストライキが起っています。国が定年退職の年齢を 64 歳に引き上げたことに反対するため、ほぼ毎週火曜日にあります。学校でも教師がストライキを起し、授業の休講が多くなります。色々な人に「あなたは反対？」と聞くと、「もちろん！ 長く働きたくないからね」と言います。学生もストライキで授業を休み町で行進する人が多いです。ストライキがあると交通網がマヒするなど不便なことがあります、それでも自分たちの意思をストライキという形で強く国に訴えるという国柄が、日本とはとても違うと感じます。

バレンタインに向けて、高校ではバラやメッセージを人に他人経由で渡す事が出来るというイベントがありました。事前に予約をして、バレンタインが近くなると授業中に代行人の数名の生徒が教室まで渡しに来てくれます。日本ではバレンタインに女性が男性にチョコを渡すのが普通だと伝えると「えー逆じゃないの？」と、とても驚かれました。フランスでもバレンタインは人気なイベントですが、日本のようにバレンタインに合わせての商品がたくさん店に並んでいる、という印象は少なかったです。

もう留学生活も残り 4 か月を切りました。ここまでの時間は本当にあっという間でしたが、同時にたくさんのことに悩み、たくさんのことを経験しました。そして、日本にいる家族や友人、森村の先生方、フランスでできた大切な人たちに支えられ、今日ここで過ごす事が出来ています。周りの人達への感謝を忘れずに、日本に帰るその時まで 1 分 1 秒を大切に過ごしたいと思います。悔いの残らないように何でも挑戦して、たくさんのこと



を吸収して、人としてまた成長できるように、またこの留学生活が人生の中で宝物になるように…！ この留学だよりもあと何回書けるのか分かりませんが、留学をしたいと思っている人や海外に興味を持っている人の少しでも助けになれば嬉しいです！

皆さんもお身体にはお気をつけてお過ごし下さい。

それでは **Au revoir** !